

# 静観台グループ例会

於：サイエンスフィールド 2001. 10. 3

参加者 石浦（科学園）倉橋（幡多小）福井（伊島小）

雨天で延期されていた運動会とその反省会が前日にあり、参加者の少ない例会でした。個人的には標本づくりについて石浦先生から教えて頂いたり、倉橋さんにおもしろグッズをわけてもらったりでけっこう充実した会でした。いつも準備を整えて待っていてくださる石浦先生には何だか申し訳なく思いましたが。

## 【プレパラートの封入】石浦

顕微鏡で観察するプレパラート作りについて、試料を封入して永久プレパラートにするやり方を教えてもらいました。カナダバルサムという樹脂の一種をキシレンという溶剤で溶かして水飴より少しサラサラした状態にし、スライドガラスの上に置いた試料に1滴たらしめます。キシレンが揮発すればそのままでも永久プレパラートになりますが、小さな試料の場合はカバーガラスで固定します。カナダバルサムはガラスと色収差が同じなので水でスライドガラスの上にのせるより観察には適しているそうです。このカナダバルサムの性質を使って水田先生が車の窓ガラスについた傷を跡形もなく補修したという話を聞きました。（…以上の話は福井が脳ミソテープを再生したものなので、多少違うかも知れません）

1番上の写真の左下に写っているスライドガラスの上にはオスのコオロギの羽が木工用ボンドで貼りつけられています。これを顕微鏡で見ると、みごとにヤスリのようなギザギザが見られ、音を出さず仕組みが観察できます。このギザギザ模様が見られるのは右の羽だけで、左の羽には固いこぶのようなものが見られます。また、コオロギの前脚の中ごろ（ひじの下のような所）を解剖顕微鏡で見ると白い丸いものが見られますが、これがコオロギの耳なのだそうです。

## 【ストーンチョコ】倉橋

スペイン産のストーンチョコ、小石にそっくりなおもしろグッズですが、倉橋さんは100円ショップで購入したビンにラベルを貼って、それらしく見せかけています。ストーンチョコは厚生町のプロフーズで買ったそうです。

## 【なまりのペンダント】福井

鉛をとかしてペンダントを作る遊びですが、型剤に油粘土を用いると熱で油粘土が変質してうまくいかない。仕方なくステンレスのプリンカップで作っているのですが、どなたか熱に強い型剤をご存じでしたら教えてください。

## 【さそりの標本】福井

人を驚かせる定番グッズですが、簡単に作れる方法が『たのしい授業』9月号に載っていました。

